

日本盲導犬協会神奈川訓練センターにおける 短期視覚障がいリハビリテーション開催について

○堀江 智子（公益財団法人 日本盲導犬協会）

原田 敦史（公益財団法人 日本盲導犬協会）

1. はじめに

日本盲導犬協会神奈川訓練センターでは、仙台・富士宮・島根の各訓練センターで実施している視覚リハ事業と同様、短期視覚障がいリハビリテーション（以下、短期リハ）を今年度より開始した。この事業は、国や地方自治体等の支援ではなく、当法人独自の事業である。

実施するにあたり、関東圏域は視覚障がいリハビリテーション（以下、視覚リハ）施設や歩行訓練士がすでに数多く存在しているため、どのようなニーズを持った視覚障がい者が参加するのか、参加希望者が存在するのか予測が困難であった。

実際は、案内後5日以内に16件があり、定員をオーバーし、その後も問い合わせが継続している。今回は参加者のニーズや提供した訓練を報告し、効果と有用性について考察する。

2. 短期リハ概要

実施日：平成22年6月20日（日）～

6月26日（土）の6泊7日

開催場所：神奈川訓練センター（宿泊を含む）で実施。

募集方法：視覚障がい支援機関、行政、ロービジョン（以下LV）クリニックを併設している眼科病院へ約100件の案内文の郵送と、数箇所のメーリングリスト（以下ML）に案内を投稿した。

対象者：身体障害者手帳の有無は問わず、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県に在住の視覚に障がいがある方

募集定員：8名

参加費：9000円

訓練科目：

- ・白杖歩行訓練
- ・日常生活動作訓練（以下ADL訓練）
- ・パソコン訓練（以下PC訓練）
- ・点字訓練
- ・LV訓練
- ・その他 盲導犬歩行の体験等

訓練時間：1コマ75分

訓練前に事前面接を実施し、終了後に自宅等でフォローアップを実施した。

3. 参加者、訓練希望概要

参加者：7名（男性4名、女性3名）

居住地：東京都2名、神奈川県2名、

千葉県3名

視覚障害者手帳：1級1名、2級6名

平均年齢：66歳

希望する訓練：歩行訓練6人、ADL訓練6人、PC訓練3名、点字訓練2名、LV訓練2名

4. 訓練状況

(1) Aさん 男性 76歳

○視覚障害原因：網膜はく離 全盲

○身体障害者手帳：1級

○参加動機：リハ訓練を受けたことがなく、白杖の基本操作を知りたい。パソコン操作で分からないところだけ知りたい。以前から短期リハの存在は知っていた。

○実施訓練：（数字は訓練コマ数）

白杖歩行

（基礎操作4、電車バス乗降3、夜間歩行1）、

PC 訓練：1
 盲導犬歩行 2
 ADL 訓練（電子レンジ調理 2）
 その他（白杖申請手続き 1）

(2) Bさん 男性 66 歳

○視覚障害原因：網膜色素変性症（以下 RP）
 ○視力：R 0.2 L 0.4
 ○身体障害者手帳：2 級
 ○参加動機：外出時、目的地までの時間がかかるようになり特に初めて行く場所は困難。調理中に鍋をひっくり返すことがある。将来、自立した生活ができるようにしたい。音声ソフトを知りたい。MLで短期リハ参加者が書いている感想をみて参加しようと思った。
 ○実施訓練：
 白杖歩行
 （基礎操作 5、電車バス乗降 3、夜間歩行 1）、
 盲導犬歩行 3
 PC 訓練 3
 ADL 訓練（電子レンジ調理 4）、

(3) Cさん 男性 65 歳

○視覚障害原因：原因不明
 ○視力：R 義眼 L 0.2
 ○身体障害者手帳：2 級
 ○参加動機：パソコンでインターネットがしたい。障害福祉課に相談していたところ短期リハを紹介してくれた。宿泊に不安があったが、事前に家族と施設見学し宿泊で訓練を受けることとした。
 ○実施訓練：
 白杖歩行
 （基礎操作 3、電車バス乗降 3、夜間歩行 1）、
 PC 訓練 9
 盲導犬歩行 2
 その他（片麻痺があり T 字杖を使用、フィッティングの必要性があり横浜市総合リハビリテーションセンターを紹介）短期リハ終了後に相談に行った。

(4) Dさん 男性 68 歳

○視覚障害原因：RP
 ○視力 R 0.2 L 0.1
 ○身体障害者手帳：2 級
 ○参加動機：数年前までは一人で行動できてい

た。日中は白杖は使っておらず、夜間は自分で工夫して使っていた。そろそろ白杖の基本的な使い方や日常生活動作の訓練を受けてみたいと思っていた。特に LV ケア。

○実施訓練：
 白杖歩行
 （基礎操作 4、電車バス乗降 3、夜間歩行 1）、
 盲導犬歩行 3
 ADL 訓練（電子レンジ調理 3）
 点字 2、PC 指導見学

(5) Eさん 女性 63 歳

○視覚障害原因：RP
 ○視力：R 0.07 L 0.1
 ○身体障害者手帳：2 級
 ○参加動機：F さんに誘われて参加。これから段々と不自由になると思うので、今のうちに少しでも勉強や訓練して身につけておきたい。ID ケーンは持っているが使っていない。自宅周辺では使いたくない。

○実施訓練：
 白杖歩行
 （基礎操作 6、電車バス乗降 3、夜間歩行 1）
 盲導犬歩行 2
 ADL 訓練（電子レンジ調理 5）

(6) Fさん 女性 61 歳

○視覚障害原因：RP
 ○視力：R (-) L 0.06
 ○身体障害者手帳：2 級
 ○参加動機：MLで短期リハを知り、1 人では不安だったので、友人を誘って参加。参加してよかったら知り合いにも勧めたい。いろいろとわからないことがあり不安。ID ケーンを所持、訓練施設で電車乗降の訓練を 2 年前くらいに受けた。調理などコツを知りたい。

○実施訓練：
 白杖歩行
 （基礎操作 5、電車バス乗降 3、夜間歩行 1）
 盲導犬歩行 2
 ADL 訓練（電子レンジ調理 5）

(7) Gさん 女性 64 歳

○視覚障害原因：RP
 ○視力：R 0.03 L 0.02
 ○身体障害者手帳：2 級

○参加動機：Fさんに誘われて参加。一人で生活できるようになりたい。動作のポイントを知りたい。点字でエレベーターの階を知りたい。

○実施訓練：

白杖歩行

（基礎操作7、電車バス乗降3、夜間歩行1）

盲導犬歩行2

ADL訓練（電子レンジ調理5）、

点字訓練1

5. 結果及び考察

全体的には、今知りたいこと、これから視力低下による変化に必要な情報が提供でき、それぞれのニーズが消化できていたと思われる。

5-1 プログラム作成における配慮

事前に面接を行い居住環境や個々の見え方やニーズの確認を行ったところ、保有視覚の有効な使い方を知ることにより生活しやすくなると思われた。視覚の効率的な活用を中心に支援計画を作成し、複数人数での訓練とマンツーマンでの訓練を組み合わせるプログラムを組むこととした。

5-2 各訓練について

白杖基本操作訓練は全員に行い、社会参加活動として歩行訓練を兼ねて電車・バスを利用して大活字グッズショップ「ドリーム大活字」を訪問し、便利グッズを手にとったり、(株)アイネットワークから音声よみあげ機器の紹介を受けた。電子レンジ調理の訓練は、グループで実施するもの、個別で行うものを組み合わせる実施した。

全体としては、現在の見え方を把握し、積極的に活用することを目標にLV訓練を実施した。また全員に対して夜間歩行訓練を実施した。その結果、目線をあげて周りをよくみることで確認できる看板や文字があることが分かったり足を白杖で確認することで、姿勢がよくなっていった。また、視覚以外の感覚を併用することで、もっと楽に安全に作業を行えることを実感していた。

5-3 参加者のニーズと背景について

今まで実施してきた他センターの短期リハと

比べると、年齢、等級ではそれほど大きな違いはなく、同様の傾向であった。ただ訓練科目についてはパソコン訓練の割合が少なかった。今回の参加者はMLを利用するなど、すでにパソコンを活用している方が多かったようである。関東圏ではPC訓練・体験を支援する団体や相談機関が多く、PC利用者が多いことを改めて実感した。

5-4 リハビリプログラム経験者と初心者の違い

関連施設も多くあるため、協会が今まで実施していた、仙台・島根とは異なり、リハ訓練を受けた経験のある方が、参加者の中に数名いた。これらの方は視力低下が進み、不自由を感じているものの、どの段階で再度視覚リハ訓練を受けなおすべきか迷いながら生活していたことがわかった。今回は短期間ということも受講のきっかけになったようであるが、一度訓練を受講した人へのフォローアップ・支援も継続的に実施していく必要性を感じた。視覚リハ訓練を提供する施設が多い関東地域ではそういった方へのサービス提供・連携も必要なのではと考えた。

一方で、初めて視覚リハ訓練を受講した方もおり、施設が充実している関東地域でも情報が届いていない部分があることが明らかとなった。特に眼科病院等と視覚リハ施設との連携がうまくとれていない環境下では、まだまだ苦しんでいる視覚障がい者や家族が多く存在すると思われた。

5-5 短期リハを通しての印象

訓練については、不安が解消された、自信がついた・丁度いい期間だったという感想もあり、短期のリハサービスが視覚障がい者のニーズに対応できていることを改めて確認することができた。

6. まとめ

神奈川訓練センターではリハビリテーション事業を本格的にスタートした。実際の応募は予想以上にあり、関東近県でもニーズが高いことがわかった。今後も募集を続けるが、関係機関との連携を更に深め、リハニーズを持つ当事者の社会参加に貢献したい。